

令和4年（2022年）7月7日

遠隔診療システムを開発、製造販売する大学発ベンチャーを設立

【本件のポイント】

- 文部科学省・科学技術振興機構COIプログラム¹にて開発した高臨場感なリモート診察システムを実用化する。
- 城戸淳二教授と株式会社YCC情報システム、山形大学リエゾンアドバイザー三宅裕介が、アイメディコ株式会社を設立し、リモート診察システムをさらに改良、高機能化して製造販売を行う。
- NTT東日本と共同で、まずは山形県内、東日本へと普及させる。



【概要】

山形大学では、文部科学省・科学技術振興機構 COI プログラムの快適空間創造部門で有機 EL ディスプレイ、有機 EL 照明の研究開発を行い、有機 EL ディスプレイの高画質、白色有機 EL 照明パネルの高演色性を活かした応用として、リモート診察システムを開発し、NTT 東日本と共同で酒田市の日本海総合病院、松山診療所と飛島診療所を本リモート診察システムで接続して実証実験を昨年より開始した。この度、本システムにさらに各種センサー機能を搭載し高機能化リモート診療システムを開発、製造販売する「アイメディコ株式会社」を城戸淳二教授、株式会社 YCC 情報システム（代表取締役社長 伊藤秀美）、三宅裕介（山形大学リエゾンアドバイザー）の3者が設立する。

【背景と経緯】

コロナ禍において介護施設や病院での感染クラスターの発生が大きな問題となっている。そこで、医師と利用者、患者が直接対面する事なく、また遠方からでもすぐに診察できるリモート診察システムの導入が急務となっている。しかし、現在のリモート診察システムは、単にパソコンやタブレット、スマホなどで、医師と患者らが会話をするだけの機能しかなく、顔色など病状の診断に不可欠な情報が不足している。

本システムでは、より高臨場感な診察を可能にするために、演色性の高い白色有機 EL 照明で患者らを照らし、医師は高画質の有機 EL ディスプレイを使用することにより、自然に近い色合いで顔色や表情などを観察することができるようになる。また、無医村などのへき地医療においても、リモート診察は住民の安心、安全な生活に不可欠であり、COI プログラムでは、無医島である酒田市沖の飛島の診療所と酒田市の日本海総合病院、松山診療所をリモート診察システムで繋いでの実証実験を NTT 東日本との共同で行った。今後、山形県内、そして日本国中に本システムを普及させる目的でアイメディコ株式会社を設立し、脈波測定や電子聴診器機能など、さらなる高機能化を目指して開発を加速し、製造販売を行っていく。

お問い合わせ

学術研究院 教授 城戸淳二（有機エレクトロニクス／有機材料システム研究科担当）
TEL 0238-26-3052 メール kid@yz.yamagata-u.ac.jp

【参考】

※用語解説

COI プログラム： センター・オブ・イノベーション（COI）プログラムとは、文部科学省が基礎研究段階から実用化を目指した産学連携による研究開発を支援するものです。10年後の目指すべき社会映像を見据えたビジョン主導型のチャレンジング・ハイリスクな研究開発を支援しています。（実施期間：2013年度～2021年度）